



モヤモヤを科学する —課題発見の哲学的アプローチ—

【はじめに】

授業や研究において課題解決に力を注ぐことは多いですが、今の時代において課題発見の重要性はますます高まっています。複雑化する社会では、適切な課題を特定することが、効果的な解決への第一歩となります。ここでは、『[哲学シンキング：「課題発見」の究極ツール](#)』^[1]で紹介される批判的思考に焦点を当て、日常や研究で直面するモヤモヤとした違和感や問題を、論理的に整理し、実践的な解決に導くための思考法をシェアします。

【問いの発見プロセス：理由や根拠を問う】

このプロセスは、日常のモヤモヤとした感覚を具体的な問いに変換する出発点となります。問いの理由や根拠を問うことによって、感覚を認識して論理的に分解するアプローチに焦点を当て、思考を前向きに導きます。問いの前提や問い方自体を見直すことで、予期せぬ方向へ視点をシフトさせ、思考を深めることができます。

【多角的視点で課題を明らかに：本質や前提を問う】

問題をさまざまな角度から観察することで、新たな視点を得られます。問題解決の前に、必ず「問い」で「問題の中心」を整理することが重要です。本質や前提を探り、問いの順序や前提条件によって、その意味合いや方向性が大きく変わることを理解する必要があります。

【協創的探求：別の視点や可能性を問う】

自分の根本に触れるきっかけは、他者から提供されることがあります。他者の言葉に徹底的に耳を傾けること、時には自分自身の内なる声にも耳を傾けることが大切です。「問い」を他者と共有することで、共に向き合い、互いの意見、考え方、背景や理由を探求できます。そのプロセスを通じて、自分と同じ点、異なる点を理解することができます。

【終わりに】

この哲学的思考法を身に付けることで、研究のテーマ選定だけでなく、日常生活における意思決定や問題解決にも役立ちます。課題を発見する力は、個人の成長にも繋がる大きなスキルだと思います。

【参考】

[1] [吉田幸司 \(2020\) 『哲学シンキング：「課題発見」の究極ツール：「1つの問い」が「100の成果」に直結する』マガジンハウス。](#)

(理工学研究科 M2)